

開催日時：平成15年7月31日(木) 15:00～18:00

場 所：大阪府職員会館 4階 多目的ホール

出席委員：池淵委員長、荻野委員、高橋委員、中川委員、久委員、弘本委員、増田委員

1 . 議 題

- (1) 前回議事要旨確認
- (2) 一級河川淀川水系西大阪ブロック
河川整備計画について
水の都大阪再生構想について

2 . 概 要

(1) 前回議事要旨確認について

- (委 員) 西除川ではファブリダムが原因で瀬切れが多く発生している。整備計画にも農業関係者と上下流の連続性や水利用について協議を行っていきと書かれており、これを実行に移して少しでも維持用水や自然環境など全体での河川環境が向上することを強く望む。

前年度から審議してきた一級河川大和川水系西除川河川整備計画(案)、二級河川近木川水系河川整備基本方針(案)については、委員会での意見に基づく修正を確認のうえ了承された。

(2) 一級河川淀川水系西大阪ブロック

一級河川淀川水系西大阪ブロック河川整備計画(基本方針部分)の説明に対し、以下のような意見があった。

- (委 員) 防潮堤の耐震補強とスーパー堤防整備の関係について、投資の面や事業進捗をどのように考えていくのか。
- (事務局) 耐震補強の未整備区間が44%あり、ここについては耐震補強を推進していく。そのなかで、背後地と条件整理が出来れば、スーパー堤防化を進める。さらに、既に耐震補強が出来ている箇所についても、背後地に開発の動きがあれば、スーパー堤防を行っていく。その際、耐震護岸の整備高さは、スーパー堤防整備時の前面の護岸高さにしており、無駄となる構造とはなっていない。
- (委 員) 津波対策等について検討事項が多いが、各種の検討委員会でどのような結果が何時出てくるのかをタイムスケジュールで示して頂きたい。また、津波が発生した際、河道内で砕波するのかどうかを検討してもらいたい。砕波が起こるとなると、設計以上の外力が構造物に働かないかのチェック、浅水効果を考慮した波高高さの確認、船などの浮体、漂流物が遡上して構造物に与える影響などを考慮する必要がある。
- (事務局) 各種課題に対するスケジュールは次回お示しする。これらの課題については、津波対策委員会などからも提言などとして出されてくると思われ、その意見をもとに対応策等の検討を進めていく。

「水の都大阪再生構想」の説明に対し、以下のような意見があった。

- (委員)水の都大阪再生構想のエリアは西大阪ブロックの一部であり、整備の方針の作り方が異なる。再点検を行う必要がある。また、耐震補強をおこなう際、環境デザイン的な配慮をする必要がある。一つは河川の横断方向を考えたとき、水面と水際とまちをどうつないでいくのかということが大事であり、この連続性をどう関連づけるのかに注意が必要。もう一つ、流軸方向の連続性も考えたうえで基本方針を作成すること。その際、昭和初期の大阪市における水辺の空間構造が今後の整備の参考になる。
- (委員)環境と防災の問題は一体の話であり、個別対応だけしていたのでは、まち全体として見たときに脈絡のないものになってしまい、防災力を弱めることになりかねない。『水の都大阪』再生構想の中にも、まちづくりのなかで防災をどう考えるのかを盛り込み、それを環境という視点から考えなければならない。また、整備計画のなかでも、都市部であっても環境学習ということにも触れていくべきで、当面は防災について学ぶことでも良い。
- 大阪市は昼間人口が多く、災害が起こった際に外国人やホームレスへの情報の伝達方法など大都市ならではの防災のあり方を考える必要がある。
- 耐震補強を行なうときには、親水面と防災面をあわせて地域の方と検討していく機会があれば良い。
- ハザードマップについては、高潮や津波、洪水による検討のものがあるが、住民が混乱しない形で整理していただきたい。
- (事務局)水の都大阪再生構想は、国、府、市、経済界からなる協議会で大阪市内のまちづくりや沿川整備について検討し、基本構想として策定したものだが、これは河川のハード整備だけでなく、活性化や賑わいづくりという観点からもまとめており、いくつかの足りない観点もあるが、河川整備計画に盛り込むうえでの参考資料として捉えていただきたい。西大阪ブロック全体の河川整備計画については全体的な視点で基本方針をまとめる必要があると考えている。
- (委員)これからの都市の中に、川という上下流につながった水面があることは非常に大きな意味があり、この基本的な部分がきっちり踏まえているのかが非常に気になる。例えば、道頓堀川の整備はここに自然空間としての河川があるとみると、賑わいのための整備とはならないと思う。そういった根本的な議論を長期的な視点できっちりやっておかねばならない。
- (事務局)道頓堀川で現在整備を進めている区間については、大阪市としてはこの地域特性を踏まえ、イメージパスにあるような整備を行ないたい。しかし、沿川地域のまちの特性が違ってくる区間について、今後、ゾーニング的な面も含め考えていく必要があり、当委員会にもお示ししたい。